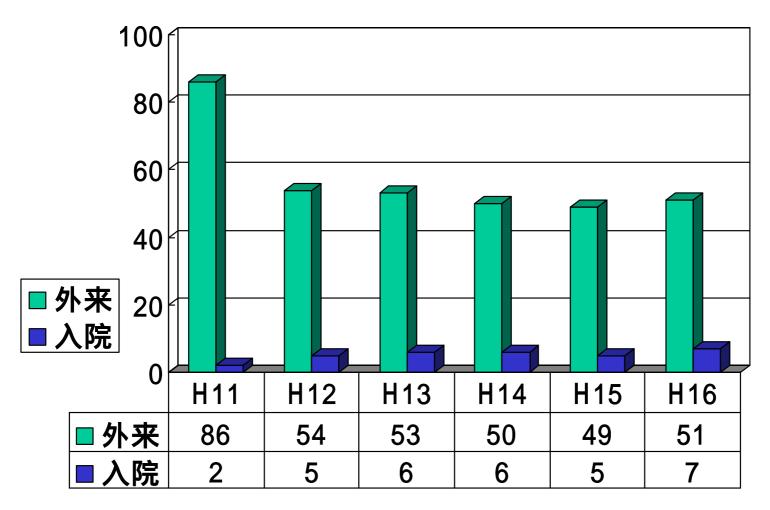




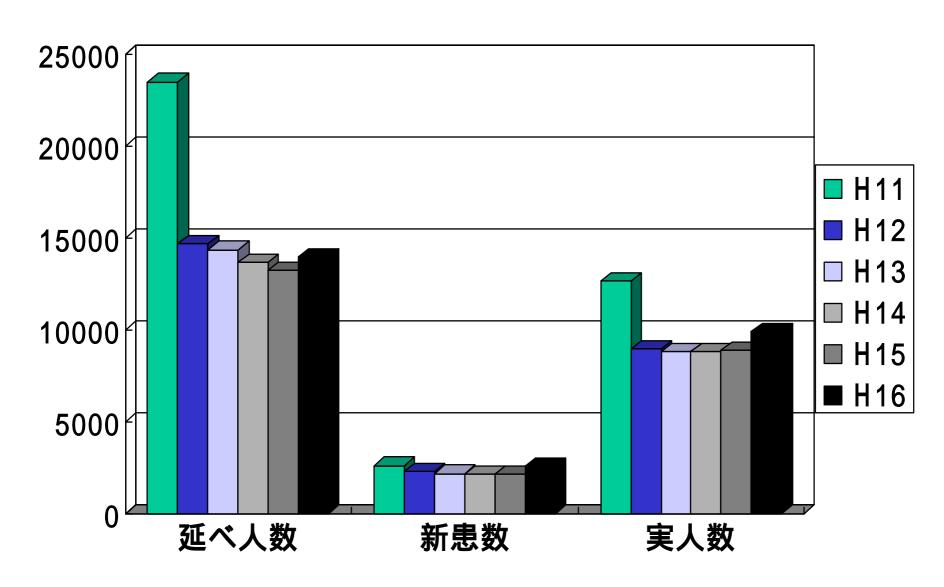
H11年度-H16年度(五十嵐の勤務した5 年間、および前任Drの1年) の患者動向と診療収入との関係などを 検討し、病院の耳鼻科診療のありかた を検討した。

一日平均患者数

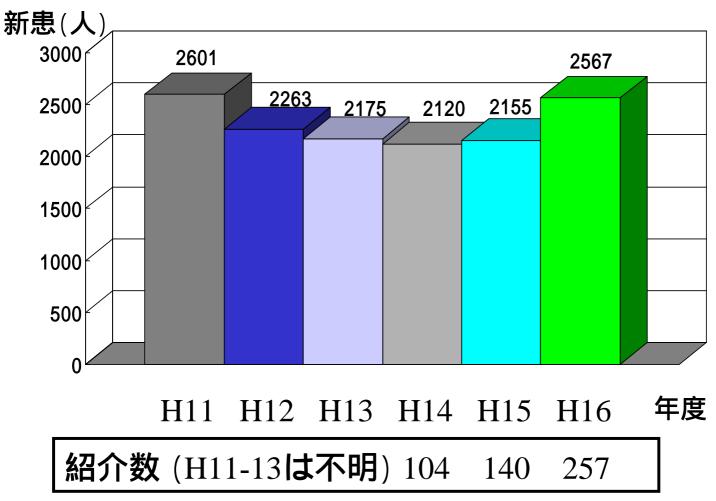


外来中心から入院中心の診療パターンに変わっている

外来患者総数

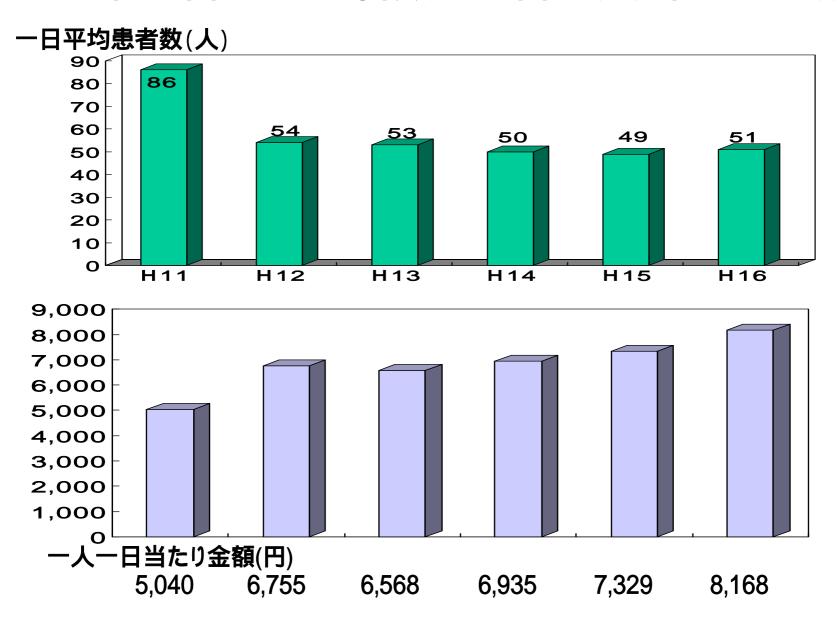


新患と紹介患者数

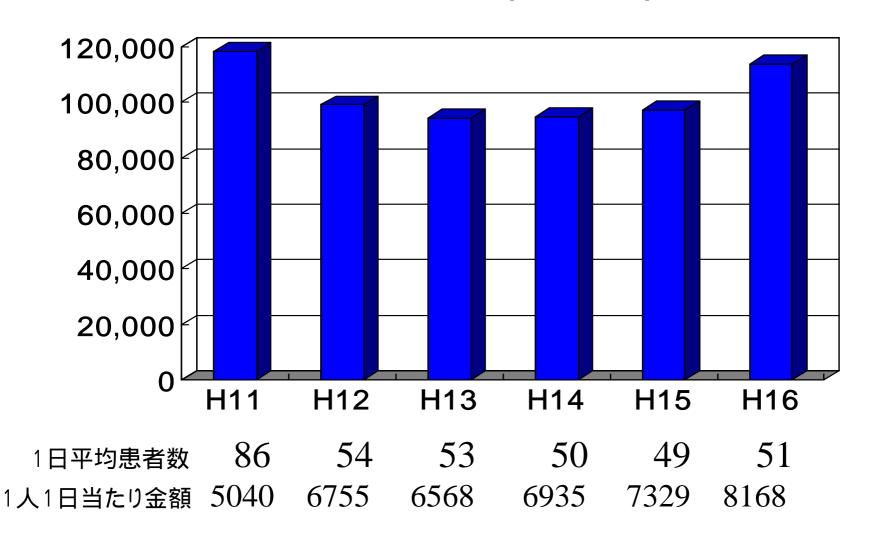


H14年度までの減少はおもに小児患者、 その後の増加は成人と紹介患者?

外来一日平均患者数と一日一人当たり金額



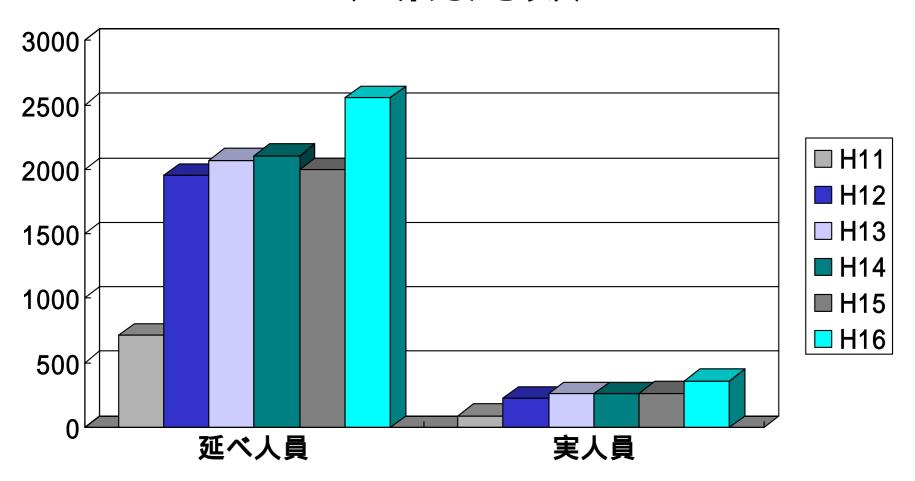
外来収益(千円)



1人一日当たり金額の増加により患者数減ほど収益は減少していない

入院

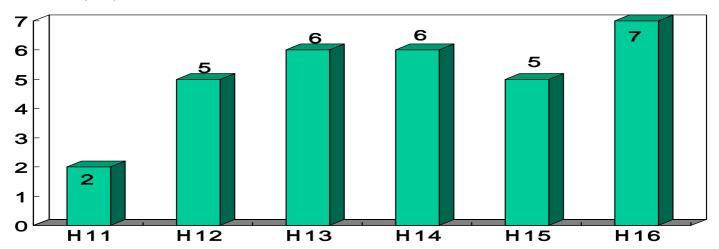
入院総数



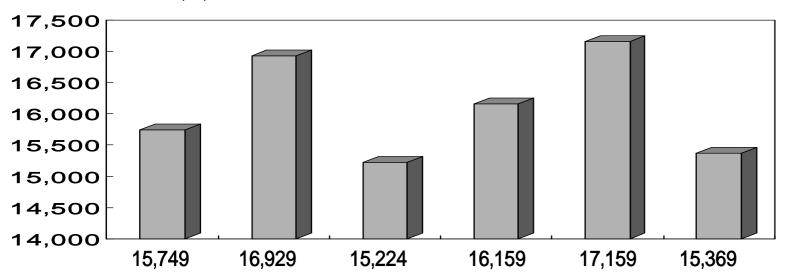
入院はH11からH12に急増。H15からH16も労災耳鼻科が入院を中止した影響により増加。

入院平均患者数と単価

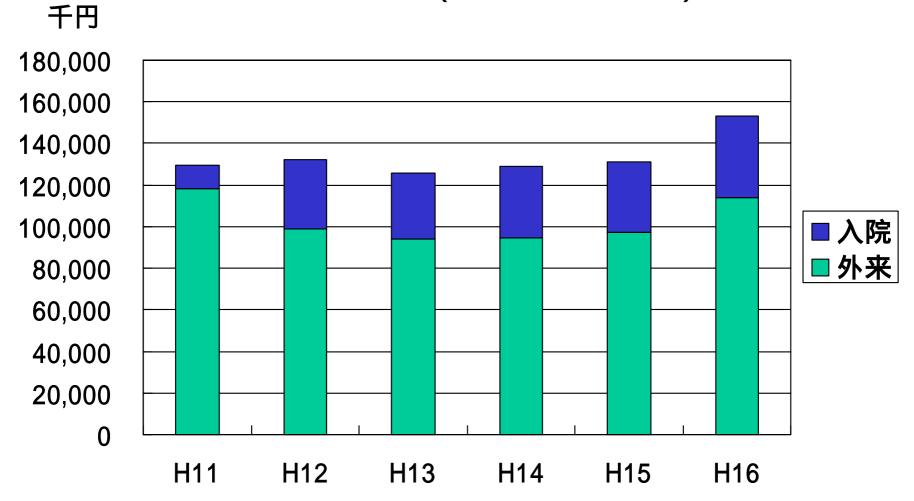
一日平均患者数(人)



一人一日当たり金額(円)

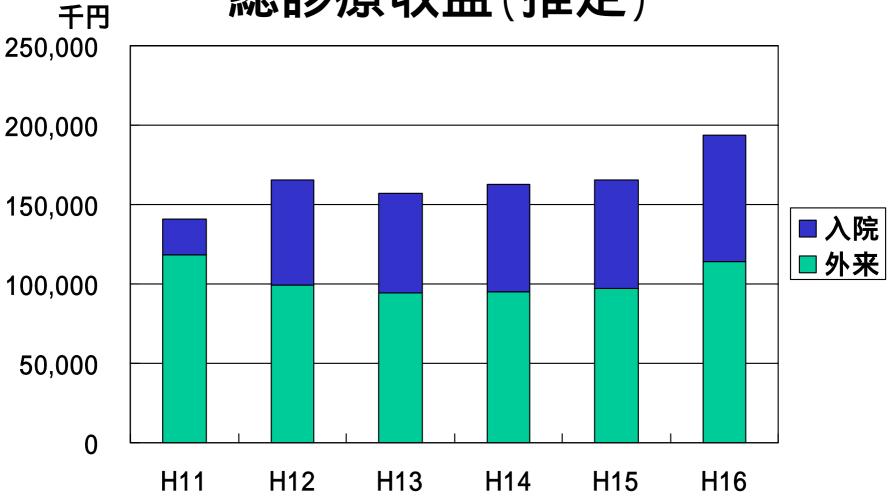


総診療収益(病院データ)



上記入院収益には、入院料、食事療養費などを含んでいないため 外来収益に対して入院収益が低くだされている。

総診療収益(推定)



入院収益に入院料、食事療養費などを含んだもの。 入院中心の病院耳鼻科(常勤医一人)で年間一億六千万から一億九千万の収益。